

### 【南アルプス市を守った堤防】(下)

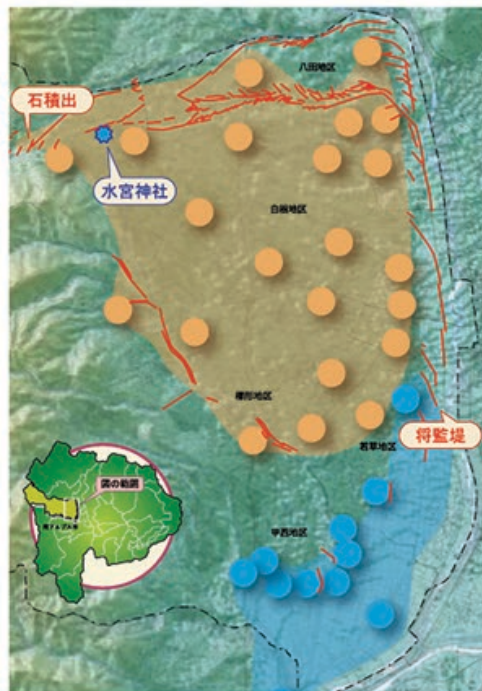
# 「石積出」

いしつみだし

南アルプス市の北半分をまもった水防の要



石積出一番堤



- 石積出に守られた村々とその範囲
- 将監堤に守られた村々とその範囲
- 南アルプス市内の主な堤防遺跡

水宮神社(有野地内)  
水宮神社の灯籠に刻まれた「治山・治水」の文字には、まさにこの神社に込められた想いを見ることができます。



巨麻郡下条南割村差出絵図  
(年不詳 山梨県蔵)  
石積出しが御勅使川の流れを北に追いやり、その南側に描かれた村々を守っていることがわかります。



御勅使川の流れを北に寄せ、甲府盆地中心部を水害から守ったといわれる石の堤防「石積出」。武田信玄が信玄堤、将棋頭などと共に造ったともいわれ、現在は将棋頭と共に国の指定文化財になっています。

武田信玄の伝説のなかで語られることが多いこの石積出ですが、一方で、南アルプス市のほぼ北側半分を守った、地域にとっても重要な堤防でもありました。

地域に残る古文書などによって、石積出は江戸時代、この堤防が造られた有野村(現在の南アルプス市有野)を含む周辺22カ村もの村々によって共同で守られてきたことが知られています。

この22カ村は、有野から遙か7km以上離れた小笠原や十日市場など、扇状地末端の村々をも含み、広大な御勅使川扇状地の上に営まれたほぼすべての村を含みます。

これは、有野村の堤防が決壊すると、洪水は御勅使川扇状地全体に網目状に広がり、現在の白根地区だけでなく、櫛形地区や若草地区にまで被害が及んだことを示しています。御勅使川扇状地の扇頂にある有野村の石積出は、まさに御勅使川の治水における扇の要のような存在でもあります。

もありました。

また、有野には、昔からの集落の西側に水宮神社があります。

この神社も実は石積出同様、広く御勅使川扇状地上の村々で守ることになっています。

村の西側、つまり村に水害がもたらされる方向に祀られたこの神社にもまた、御勅使川扇状地に生きる人々の願いが込められているのです。明治時代以降でも、たとえば大正15(1926)年に水宮神社の拝殿の改築をした際には、御勅使川扇状地上の各村から広く経費が募られました。

このように、南アルプス市は、石積出や先月紹介した将監堤、そのほか数多くの堤防、また、さまざまな先人の知恵と努力によって水害から守られてきたのです。